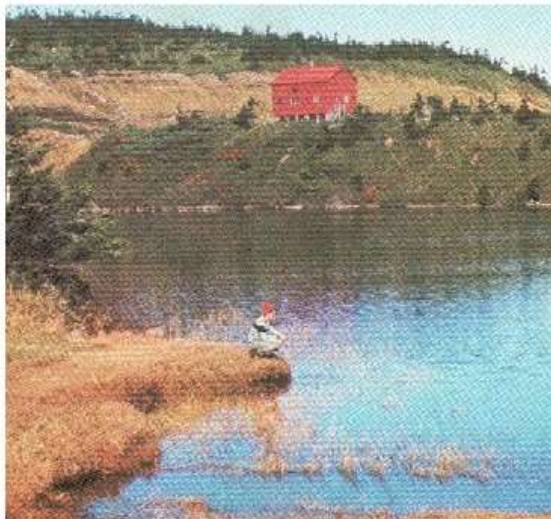


# あだたら

発行所  
三本松市木ノ根坂  
あだたら山の会  
編集部

## 六〇周年記念山行 八幡平 参加者募集



八幡沼 昭和53年、山と溪谷社「東北の山」から

【実施日】 九月八日(土)〜九日(日)

【内容】 松川温泉前泊・岩手八幡平登山

【費用】 二万円 (二十人参加の場合)

【集合】 八日(土)朝八時三十分  
霞ヶ城公園駐車場集合

【申込先】 青木会長  
佐藤タカ子さん

【申込締切】 八月例会迄

六月十七日(日)

## 春の僧悟台登山道整備

報告 編集部

●編集部連絡先  
二本松市木ノ根1-5-15  
0243(22) 4245  
渡辺 正



コバイケイソウ 僧悟台



午前7時43分、塩沢登山口出発

僧悟台登山道は塩沢登山口から入り、広大な溶岩台地「僧悟台(江戸時代の地図では入会地を示す「相郷」と記されている)」を通過して鉄山と箕輪山の中間・山頂稜線「笹平」を目指す安達太良山では中級以上とされるルート。静かで高山植

物に富み、湯川溪谷登山道と周囲ルートとすることもできる。

当日は八人の会員が草刈機四台を持参し、午前七時三十分過ぎに塩沢登山口を出発。十一時半には山頂稜線「笹平」に到着。昼食後、下山しながら登山道に張り

出した笹の刈払い作業を行った。梅雨の合間の上天気、足下には「妻取草」「御前橋」「舞鶴草」、僧悟台分岐は、「更紗ドウダン」「裏白瓔珞」が満開。どちらを向いても「満天星」状態。特に「ベニ更紗ドウダン」の赤桃色の見事さはどんな花も及ばない。足下は踏み込めない程の岩鏡やアカモノの庭、電胆の若芽も背を伸ばしてきていて、刈払い作業が、ためらわれる程だった。稜線近く「三つ葉オウレン」も見られた。来月

頃一斉開花する名物の白山石楠花も二〜三輪の開花が見られた。花のシーズンはまだまだ続く。作業しなごらだたため十八時頃になったが全員無事下山した。



笹平分岐で 佐藤さん特製のコーヒー



9時36分、両側全て紅更紗ドウダン



白山石楠花が開花していた



水飲み場でも集合写真

個人山行

五月二十七日(日) 甲子山  
 六月三日(日) 花の不忘山  
 六月十四日(木) 皇海山

報告 菅野善雄



5月27日、甲子山

【五月二十七日・甲子山】  
 白ヤシオ見に 五月二十七日甲子山(一五四九m)、満開の白ヤシオ カメラに収め 登山口から山頂まで

【六月三日・花の不忘山】  
 次の週六月三日は、花の不忘山。小桜・シラネアオイは元よりイチゲ・イワカガミ・ドウダン・チングルマ・チドリ草など、多くの花々に会う事が出来、大満足の山行だった。ユキトリ沢で休憩していると大声で私達を呼びながら来る登山者、なんと会津の山友、駐

約三時間のゆっくり山行。山頂では先客から熊の情報なども入る。沢登りの二人組やその他の登山客と楽しい昼食。

車場で私の車を見て来てくれることが判ったらしい。昨年の不忘山山行では安達太良山の様に荒れた登山道だった。今年はユキトリ沢上から不忘の碑下までの登山道の約半分位が整備されていた。水流を止める土止めや階段、大きな丸太を利用して梯子状の階段、そして階段の間やその他の



不忘山登山道、橋を兼ねた階段



6月3日、花の不忘山

所には砂利なども敷かれ歩き易い安全な登山道になっていた。安達太良山も登山者の事故防止また活火山の安達太良山爆発などする事が有れば大変。いち早く避

難でできる登山道を望む。山の会の登山道整備ではたかが知れている。行政も口先だけでなく実行に移して欲しい。



不忘山登山道階段

【六月十四日(木) 皇海山】  
 十五日(金)

中々時間が合わず 打ち合わせもそこそこに 今回山行となった。六月十四日二本松インター出発、東北道・日光道・国道一〇〇号線を経て群馬県沼田市の



6月14~15日(金)、皇海山

には看板や赤布も付けられ迷う事はないが、何回かの徒渉、靴は時々水中。増水時は危険なので諦めたほうが良い。沢を詰め、水の量も少なくなると、急な沢となる。不動沢コルの下は右側の急斜面をトラロープや木の根、木に頼

老神温泉に着いたのが午後五時過ぎで、早速風呂に入りバイキングの夕食。明日早いので早々床に就く。六月十五日四時半起床、五時四十五分宿を出る。夜中から降り出した雨、強い雨ではない。このままで居てくれと願い出発する。皇海山入口の看板を頼りに車を進める。皇海山アプローチの道、栗原川林道。砂利道で左側は岩盤を切り崩し、右側は栗原川の絶壁で谷底が見えない。所々に落石。車から降り、落石をかたしながら進む。林道約二十分、位置が二時間も掛かってしまう。途中追い越して来たワゴン車のパーティは私達より一足先に出発して行く。朝食もそこそこにかッパを付けての入山。八時半の出発となる。登山道には看板や赤布も付けられ迷う事はないが、何回かの徒渉、靴は時々水中。増水時は危険なので諦めたほうが良い。沢を詰め、水の量も少なくなると、急な沢となる。不動沢コルの下は右側の急斜面をトラロープや木の根、木に頼



三つ葉黄連 僧悟台

歩きにくい道。疲労もピークに達していた。不動沢コル十時半、ここは栃木県側から庚申山・鋸山からのコースと合わさる。計画には鋸山も入っていたが、鋸山は見ただけで無理、あきらめて皇海山頂へ。シラビソの尾根道、最後の大石の間をロープを頼りに急登。青銅の剣を過ぎると二等三角点と濃良瀬川水源碑。皇海山頂の大きな木柱があり十人位休める広場となっている。廻りはシラビソの林で雨の中でもあり展望は無かった。楽しい昼食とはお世辞でも言いたくない昼食を済ませ、十二時四十分下山開始。途中不動沢コルで休み、滑る登山道を安全を確認しながら下山。登山口午後三時無事下山。参加者の無事を確認し帰路に就く。帰り道も落石が多く、運転手泣かせ。車泣かせのアプローチ。車の中で今日の疲労の半分を使ったような山行であった。運転手さん車さん、お疲れ様でした。